

～6月集会の言葉～

4月5月は「つながる」をテーマに、自分と周りを大切に、他の人の良いところを見つけながら過ごすことができたと思います。遠足や職場体験・修学旅行といった大きな学年行事を通して、それぞれの学年・学級のつながりも、より広がったり深まったりしたのではないのでしょうか。

次は、今年の全校活動「Luv&Piece フェス」の成功に向けて、新たなつながりをみつけ、深め、広げ、みんなで楽しめるように頑張っていますね。

学年行事を通して、私が嬉しかったことは、学校以外のところでみなさんと接した方々から、「板津中学校の生徒さんは本当に素晴らしいですね。」と言ってもらったことです。

例えば、2年生の職場体験で事業所の方から「板津の生徒さんは、自分からいろいろ質問をしてくれて助かっていますよ。」と言ってもらったことや修学旅行では毎年講話をさせていただいている石原さんから「本当に普段からきちんとしているという学校生活の様子がかうかがえます。毎年思うことですが、板津の生徒さんは制服の着こなしが美しい。そして聞きづらい私の話でも、いつも一生懸命に聴いてくださる。」と感謝されました。

他にも旅行中のある出来事で、とても誇らしいと感じた場面がありました。今から伝えるので、私が誇らしいと感じたそのポイントはどこにあるか見つけてみてください。

広島駅でのことです。新幹線から広電に乗り換えるために、2列で移動していた途中、ちょっと立ち止まったときに「その制服、とてもかわいいわね」と声をかけてきたご婦人がいました。どうするのかな…って思っていたら、すかさず「ありがとうございます」とその人を見てにっこり笑顔でお返事して、動き出した列に遅れないように急いで前の子を追いかけていきました。

さあ、どうですか？文章にしたら80字くらいにおさまるこの姿の中に、あなたが見つけた板津の誇り、いくつありましたか？私的には4つはあるのですが…どうでしょう。

① その人を見て ②にっこり笑顔で ③列に遅れないように ④制服を中学生らしくさわやかに着ている姿
これらのことがあたりまえに自然とできていることが、とても誇らしいと感じたことでした。同じデザインの制服でも、もし、スカートの丈がすごく短くて、長い髪を結ぶこともせずに首からタオルを下げ、だらしなく着こなしていたなら、決して「その制服、とてもかわいいわね」と声をかけられることもなかったでしょうからね。

学生や体操服も同じです。きちんとシャツを入れてさわやかに着こなすことがあたりまえの姿である、この板津中学校のよき伝統「板津の誇り」を、代々守ってきているみなさんに感謝です。

さて、6月7月の心のテーマは「やり抜く」です。「小さなことをやりきる」その積み重ねが「大きなことをやり抜く力」になっていくと私は思っています。小さなことを疎かにして「このくらいいいや」と楽な方に流れる考え方は、くせになります。自分勝手な考え方でやらないことに理由をつける姿も、自分の成長を妨げたり周囲に迷惑をかけたりすることになります。

何をカッコいいと感じるかは、人それぞれですが、私は、やっぱり、どんなときもやるべきことに一生懸命、誠実に向き合っている姿を見ると、カッコいいなあと思います。その人を応援したくなります。どんな小さなことでもやり切っている姿はカッコいいです。

「大きなことをやりぬく」ために「小さなことをやりきる」姿を大事にしてください。「毎日名札をつける」もその一つです。「一人一人授業に集中する」もその一つです。みんなで小さなことをやり切れる板津中学校であってほしいと願っています。それが、これまで守られてきた「板津の誇り」につながっているからです。

以上、6月の集会の言葉とします。